

地域ケア会議活動状況

③ 地域ケア会議活動状況

ア) 地域包括ケアシステム検討委員会

重点目標	高齢者が、在宅で自立した生活を継続するための環境整備
	新たな地域への通所付添サポート事業の導入
	高齢者の生活を地域で支えるためのボランティアの育成
会議内容	第1回 令和5年7月25日 協議事項 (1) 「高齢者の自立した生活を支援するための、移動手段は足りているか？」 ・ 今ある移動手段サービスの整理 ・ 公共交通手段（路線バス、生活福祉バス、乗合タクシー） ・ 福祉移送サービス、通所付き添いサポート事業 (2) グループワーク テーマ「高梁市の高齢者の移動手段について、困りごとは？」
	第2回 令和5年11月21日 協議事項 (1) 高梁市14地区ミーティングの結果報告について (2) グループワーク テーマ「14地区ミーティングの感想・意見について」 「情報整理や支援サービスの周知のために」
	第3回 令和6年2月14日 協議事項 (1) 事業報告 (2) グループワーク テーマ「地区の活動紹介について（日名地区、備中地区）」 テーマ「次年度検討事項」
今年度の成果	14地区ミーティングの結果から、地区により社会資源がちがひ、地域課題がそれぞれ違うことが分かった。目的によっては解決できることもある。支援者がもっとつながり、各地区ごとに課題に取り組むことで成果が出せる。
	今後検討すべき14地区別の課題を、SCを中心に地域で検討する。 ・ 各地区の情報や支援サービスを整理し周知する。 ・ 移動販売のルートや調整 ・ 通所付き添いサポート事業の推進 ・ 地域でうまくいっている事例や工夫を共有する。 ・ 地域である支援やサービスをなくさない。
次年度の方向性	介護予防活動の拠点となる「通いの場」等の育成
	通所付添サポート事業の推進
	高齢者の社会参加の促進

イ) 認知症施策検討委員会

重点目標	認知症の人の早期発見と早期支援、本人ニーズの把握、医療・介護の連携による切れ目のない支援体制（認知症初期集中支援チーム）の強化
	認知症の正しい知識の普及啓発
	認知症サポーターを中心とした本人・家族のニーズと支援をつなぐ仕組みの整備（チームオレンジの構築）
会議内容	第1回 令和5年7月21日（金） 1. 認知症基本法について 2. 令和5年度認知症総合支援事業について 3. 【グループワーク】認知症月間の啓発活動について 4. 本人支援について
	第2回 令和5年11月27日（月） 1. 令和5年度認知症総合支援事業の進捗状況について 【グループワーク】「認知症理解啓発活動について」 2. 【グループワーク】本人支援について 3. 認知症初期集中支援チームの活動報告について
	第3回 令和6年2月15日（木） 1. 令和5年度認知症総合支援事業の実績及び評価について 2. 【グループワーク】 ①認知症月間等で活用する横断幕のデザインについて ②認知症ケアパスの活用方法について
今年度の成果	①地域包括支援センター総合相談件数：2,080件 （うち認知症に関する相談319件） 在宅介護支援センター総合相談件数：1,206件 認知症地域支援推進員による認知症の人、家族への支援：25件 認知症初期集中支援チーム対応件数：3件
	②認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動の実施 （幟の設置、街頭啓発・パネル展示・まちかど相談会の実施、オレンジガーデニングプロジェクト、普及啓発ポロシャツの作成・着用、高梁市図書館・各図書室での認知症フェアの開催、普及啓発ポスター・マグネットステッカーの掲示、行政放送での番組作成と放送、一般向け認知症サポーター養成講座の開催）
	③認知症サポーター養成講座：20回 認知症サポーターステップアップ講座：3回 ステップアップ講座修了者：28名、うちオレンジサポーターの登録：13名 市内3か所目となる「チームオレンジ羽場」結成（有漢町羽場町内会）
次年度の方向性	初期の頃から相談ができる体制づくりと早期支援、本人のニーズ把握、本人ミーティングの開催
	認知症月間を中心とした認知症理解啓発活動の継続
	認知症サポーターステップアップ講座の開催と各地でのチームオレンジの構築

ウ) 在宅医療・介護連携推進協議会

重点目標	医療と介護の関係者が協働・連携を図り、在宅医療と介護を一体的に提供できる。
	ICTの利活用によって、業務の効率化や多職種間の連携を図ることができる。
	人生の最終段階における望む場所での看取りを行えるように、医療・介護関係者が、対象者本人と人生の最終段階における意思を共有し、それを実現できるように支援できる。
会議内容	第1回 令和5年7月7日 1. 令和5年度の事業計画 (1) 在宅医療・介護連携推進事業 ・令和5年度高梁市医療・介護市民公開講座 ・人生会議（ACP）の普及・啓発 ・ICTを活用した医療・介護連携システムの在り方検討 (2) 実務者部会実施事業 ・多職種連携研修会 ・医療介護地域ネットワークシステムの検討 (3) 高梁かんばん（高梁医師会）委託事業 ・専門職のスキルアップと人材育成
	第2回 令和5年11月10日 1. ICTを活用したネットワークシステムの導入 (1) ラインワークスを活用したネットワークシステムの導入 (2) ケアキャビネット（やまぼうし） 2. 令和5年度高梁市医療・介護市民公開講座
	第3回 令和6年2月7日 1. 令和5年度の事業報告 2. 令和6年度に向けての課題と方向性
今年度の成果	多職種連携研修会の実施（実務者部会実施事業） テーマ：医療・介護現場でのICTの利活用 参加者：65名
	ICTを活用した医療・介護連携システムのあり方検討 ・ラインワークスを活用した医療介護地域ネットワークシステムの試行、検証 ・ケアキャビネット（やまぼうし）の検討
	人生会議（ACP）の普及・啓発 ・高梁市医療・介護市民公開講座にて寸劇上映 ・各種団体へ講話、人生会議の模擬実践 ・行政放送
	高梁かんばん（高梁医師会）委託事業 専門職のスキルアップと人材育成を目的に各種研修会を実施
	医療・介護市民公開講座の開催 在宅医療・介護連携推進事業の普及・啓発として寸劇を通して人生会議への理解を図るとともに、福祉用具及び歯科・口腔ケアの理解を市民に促した。 参加者 310名
次年度の方向性	多職種連携研修会の実施
	人生会議（ACP）の市民への普及・啓発の継続実施
	ICTを活用したネットワークシステムの連携強化
	医療・介護市民公開講座の開催により在宅医療・介護連携について普及・啓発

工) 地域ケア個別会議

重点目標	高齢者の自立支援のために多職種協議による個別課題の解決を目指す。
	事例を通じて多職種間の顔の見える関係づくりを行う。
	事例の積み重ねから地域の課題の把握を行う。
会議内容	開催頻度 毎月2回（第2・第4水曜日午後） （一回あたり 1事例約20分×4～5事例） 開催方法 参集およびケアキャビネット活用 提供事例 要支援・事業対象者認定を受け、新規に介護保険サービスを開始したもの 参加者 事例提供者（=担当介護支援専門員）、リハビリ専門職 市内介護医療専門職（薬剤師会、リハネット高梁等） 主任介護支援専門員（岡山県介護支援専門員協会高梁支部） 地域包括支援センター3職種（保健師・社会福祉士・主任介護支援専門員）
今年度の成果	事例検討数 （4月～1月）計20回 91事例
	薬剤師会、リハビリ専門職等の参加により、多職種からのアドバイスによりケアマネジメントの視点が広がった。（薬剤師への相談や事例の残薬確認、注意すべき副作用、本人が望む暮らしへの聴き取りや通所リハビリの卒業の難しさなど）
	提供事例から課題抽出を行った。結果、不足する支援として「居場所、他者との交流の場」「リハビリの場」「支援者不足」等が抽出された。
次年度の方向性	多職種による自立支援の視点での検討。（年間24回予定）
	多職種の話し合いによる連携推進
	提出事例から抽出した課題を地域ケア会議（システム検討委員会）等へ諮る。

